

2025 年 4 月 17 日

産業構造審議会
通商・貿易分科会 御中

ユニ・チャーム株式会社
代表取締役 社長執行役員
高原 豪久

国際標準化を推進するための政官の役割は以下の通りと承知している。

1. 戦略策定とガバナンス構築

経済産業省が国際標準化戦略目標を設定、重点技術領域のロードマップ作製を主導。知的財産戦略本部に政府 CSO 最高標準化責任者を設置、司令塔機能として省庁横断的な調整を実施。国内規制と国際標準の整合性を確保する法整備の推進。

2. 研究開発と標準化の統合

グリーンイノベーション基金で標準化要素を審査基準に組み込む。国家プロジェクトに標準化専門家を常駐配置。国立研（産業技術総合研究所：AIST など）と企業の共同研究に標準化 KPI を設定。

3. 国際競争力の強化

- ・人材育成システム：ISO で議長を務める専門家を多数育成するプログラム
- ・アジア戦略の展開：「アジア太平洋イニシアティブ」により、ASEAN 諸国と共同で企画案を提案
- ・大綱戦略の構築：中国の「中国標準 2035」戦略に対し、重要技術分野で日米欧連合を形成。
半導体材料関連基準で JIS と SEMI 規格の相互承認を実現など。

4. 制度インフラの整備

規格活用の義務化。認証システム改革。データプラットフォーム構築により各国規制情報と企業の標準化活動データを統合管理。

5. 国際協調メカニズム

G7 などでは標準化における多国間協議を主導。JICA 連携で東南アジアに標準化専門家を派遣。危機対応標準として災害耐性技術の ISO 規格で日本提案を適用。

当社が特に政官からの支援を期待する「３．国際競争力強化」の観点で、以下のような課題に重点的に取り組み、リサイクル技術の世界標準獲得につながるものと確信している。

➤ 技術的課題

１．リサイクル技術の高度化と拡張

当社は使用済み紙おむつから未使用時同等品質の「パルプ」や「高分子吸収ポリマー」を再生する技術を確認しているが、「プラスチック」などさらなる水平リサイクル技術の実現が必要。

２．安全性と品質の確保

使用済み紙おむつのリサイクルには衛生面や心理的抵抗があるため、安全にリサイクルできているという事例を広く情報発信し、一般の生活者や自治体の信頼を得る必要がある。

➤ 経済的課題

１．コスト削減と効率化

紙おむつリサイクルは焼却処理よりも環境負荷が低減できるもののコスト面での課題がある。焼却炉維持費や新設費用に対応するかたちで、リサイクルプロセスを正しく比較評価し、経済的に持続可能なものにする必要がある。

２．市場拡大と需要創出

リサイクルされた材料を活用した紙おむつ製品を一般市場で販売し、社会課題解決意識の高いユーザーの需要を喚起することで事業モデルを強化することが求められる。

➤ 社会的課題

１．自治体との連携強化

日本国内の多くの自治体は、紙おむつリサイクルについて認知していない。環境省と連携し自治体への周知活動を強化することで、地域ごとのニーズに応じたリサイクルモデルを推進する必要がある。

２．国際標準の獲得

リサイクルシステムに関わる新たな技術やリサイクル生成品をグローバルで正しく活用していくために、国際機関との協力、他国における実証実験などを進め、国際標準化を推進する必要がある。

➤ 環境的課題

１．温室効果ガス排出削減

紙おむつは使用後焼却される際に CO2 が排出される。リサイクルによる CO2 排出抑制効果を定量化する算定方式を明確にし、その環境負荷低減効果を社会に広く示していく。

２．環境型社会の構築

循環型経済の実現に向けて、消費財メーカーとしての責任を果たすには、社会全体で資源循環モデルを推進する必要がある。

以上